

パオロ・ファツィオリに、の質問。

スタンウェイやベヒシュタインといった有名ピアノメーカーの創業者は歴史上の人物です……。現在大躍進中の、イタリア・ファツィオリ社を除いては。創業者パオロさんが、1音階分の質問に答えてくれました。

photo_Kiyooki Sasahara text_Katsumi Watanabe editor_Sawako Akune



パオロさんが弾いているのは、ハービー・ハンコックも実際に演奏した《F308》。ベルマンやチッコリーニなど、クラシックの巨匠たちに愛された名器だ。



パオロ・ファツィオリ 1944年ローマ生まれ。工学学士の学位を取得後、71年にロッシェニ音楽院にてピアノニストの学位を取得。その後、一族で経営する家具工場にてピアノ製作を始め、78年にファツィオリピアノ工場、81年にFazoli S.R.L.社を設立。今年の夏から、日本でも正式に展開を始めている。http://www.fazoli.co.jp/

Q1 ピアノメーカーの創業者に会えるなんて珍しいことですよな。「有名なピアノメーカーの創業者は、100年以上も前に亡くなっているからね。私個人はあまり気にしたことはないけど」(笑)

Q2 好奇心は強いんですか？
「すくね。この仕事もそれごとで始まっているようなものだから。10歳のときに、従兄弟とピアノを習い始めたんだけど、失敗するとすくね叱られたので、演奏が嫌いになってしまった。でも、鍵盤を押すとどうして音が出るのか、そのシステムに深く興味を持った。それで誰もいないときを見計らって、内緒でピアノの中を覗いてみたんだ。ネジを少しだけ緩めて鍵盤を押すと、音色が少し変わって。ちょっとした変化でも、今の私にはすくね面白く感じてね。そんなことをしているうちに構造がおぼろげにわかったんだ」

Q3 当時の家族構成は？
「私は6人兄弟の末っ子。父は家具工場の経営者、兄は船の設計士だったから、子供のころから何か作ることが当たり前だった。小さなころは、メルクリンやメカノといった鉄道模型で遊んでいたよ。とにかく動くものが好きだった」

Q4 大学では工学学士とピアノニストの学位を取得してましたが……。
「ピアノを造るには、やっぱり弾けなくちゃいけないと途中で気づいて。まあ、子供のころに受けた厳しい先生の指導のおかげもあって(笑)、譜面も読めたし音楽理論もわかっていったから、学校ではそれほど苦労はしなかった。それから大学を卒業するころ、ちょうど家の事業が大きくなっていて、私も家具に使う木材の仕事に就いた。そこで父にグランドピアノを造りたいと相談し、兄と一緒にプロジェクトを始めたんだ」

Q5 工場がある場所は？
「ヴェネチア近郊のサチーレ市。家具工場が多く、チークやローズウッドなど、ピアノ製作に必要な木材が揃っていて便利だ。工場は大きくなったけど、場所が変わらないのもそんな理由だね。私はベシーックな黒いピアノが好きだけど、建築家のM・リミナル氏にデザインをお願いすることもあった」

Q6 ピアノのパーツで一番好きなのはどこですか？
「断然、鍵盤だなあ。演奏者の感情は、鍵盤を通して音になるものだから。私は常に美しい音の演奏を聞いていたい。いいピアノを造ることは、自分のためだと思ってるんだ。料理と一緒にだね。他人のために作るのはいらない。自分が美味しいと思うものを作って、それをみんなに美味しいと言ってもらえればうれしい。製作時も鳴り方や響き方に一番集中する。タッチと音も、まず自分のために造るんだ。僕は仕事が終わって家に帰るとピアノを弾くんだけど、製

作の仕事をしている人の中では珍しいことみたいだね」

Q7 今一番やりたいことは？
「難しい質問だな。まず、日本でゆつくりしたい。これまで10回以上来日しているのに最長滞在記録が4日間だよ、どうかしているよ(笑)。それから矛盾するけど、すくねでもサチーレの家に帰りたい。娘が生まれたばかりでね。私は海が大好きだから、休日は泳いだり船で沖へ出たりするんだ。小さな娘と海で遊ぶにはまだ少し時間がかかるけど、今から楽しみだ」

Q8 あなたにとって日本の魅力とはどんなところでしょうか？
「スパゲッティカルボナーラが大好きなんだけど、やっぱり太る。だから、ヘルシーな和食に惹かれるんだ。イタリアにも和食のレストランはあるけど、やっぱり味気ない。今後はこれまでに以上に日本に来る機会が増えるから、それも楽しみのひとつなんだ」